

JARA NEWS

JAPAN AUTOMOBILE RECYCLE NETWORK NEWS

Vol. 87 MAY 2015

http://www.jara.co.jp

Published by JARA Corporation Tokyo Head Office: Shinwa Bldg. 1-2-2-7F Nihonbashi, Chuo-ku, Tokyo, JAPAN 103-0027 Phone: +81 3 3548 3010 / Fax: +81 3 3231 4690

ロイヤルオートパーツ(株) 生き残りへ廃車仕入れ多角化

新車販売台数の伸び悩みに伴い、使 用済み車両の発生台数が減少してい る。中東、東南アジアなど海外市場 への引き合いや、部品取りのための 車としても中古車オークション(A A) へ低額車両の流入も増えてい る。自動車解体事業者にとっては厳 しい状況が続いている。その中で、 兵庫県三木市のロイヤルオートパー ツ㈱ (佐々木健吉社長) は自動車解 体、リサイクル部品の販売などの従 来からの事業に加え、廃車仕入れの 多角化に取り組み始めた。その背景 には前述のように自動車解体業界全 体に共通する入庫台数が減少し続け ている現状がある。生き残りを図る には新規事業への進出が不可欠だっ たということも要因にあるようだ。

廃車の発生源を求めて

同社は1972年に神戸市東灘区で佐々木自動車解体として設立。9 1年にロイヤルオートパーツとして







分離独立し、その後法人化した。現在は三木市別所町の工場に加え、大阪市住之江区に大阪営業所、兵庫県洲本市に淡路営業所を開設している。

その中で特徴であるのがスケールの大きさ。工場の敷地面積が2万6千平方メートル、延床面積が1700平方メートル、月間の処理能力が2千台となり、兵庫県内の自動車解体事業者でも有数の規模だ。ただ「業界全体が厳しい状況に直面している。それだけに、リサイクル部品販売、海外事業強化などに加え、新規事業に取り組んでいく必要がある」(佐々木社長)と話す。

同社では仕入れルートを多様化させるため、今夏をメドに新拠点を開設する。使用済み車両にこだわらず、多数の車両を集めることが狙いで、幅広い車種、年式の車を受け入れる体制を整える。「自動車解体業者ならではの試みで、さまざまな車を集めたい。事業として進出初年度から収益確保を目指していく」

CO2削減数値(SPLシステム)

リユースパーツ使用による CO2削減効果参考値 平成27年3月

3, 190t

※一般、中・大型含む車を修理する際、新品部品を使用して修理する場合に出るCO2排出量とリサイクル部品を使用して修理する場合のCO2排出量の差がCO2削減数値になります。

一般社団法人日本自動車リサイクル 部品協議会と早稲田大学環境総合研究 センターがLCA(ライフ・サイクル・ アセスメント)の考え方に基づき共同 開発した「グリーンポイントシステム」より参照。

(同)と意気込みを見せる。

若い感覚で変革に取り組む

佐々木健吉社長は2014年7月に社長に就任した。現在39歳の若さで社員数約60人の同社をけん引する。その中で常に抱いているのが危機感だ。自動車リサイクル市場が厳しい状況に直面しており、現状を踏襲するだけでは淘汰の波にさられる危険性がある。「激動の時代に入っているだけに、企業として生き残りを図るべく多方面に事業を展開する必要がある」(同)という。



http://www.jara.co.jp/



「法施行10年 リサイクルの現状と課題があると判断すれば、果敢に攻め込 第1回サミットから」 (下)

押し寄せるグローバル化の波

グローバル化が叫ばれて久しいが、 自動車リサイクル業界にもその波は る必要もあるのでは」と提唱する。 押し寄せる。今回のサミットでも 海外事業はまだまだ道半ばだ。海外 「グローバル化」を一つのテーマと して取り上げた。すでに団体や個社 状態での施策展開は今後課題となり を問わず、様々な形で海外進出は広 がっている。特に有望市場である新 興国へと活路を見いだすケースが顕 著だ。

アジアの国々のリサイクル団体とア ライアンスを組むなど世界全体を視 野に入れた展開を図る。リサイクル の国際会議などにも参加するIAR Aの北島宗尚氏は「(会議では)日 本から情報を発信することがやはり や、資料・教材の配布などノウハウ を伝えることがこれからは重要だろ う」と指摘する。

実際、南米やアジア、アフリカな どの新興国では自動車リサイクル制 度の確立はこれからだ。モータリ ゼーションの高まりにより、廃車問 題がこれから顕在化すると見られ る。そこに日本がけん引役として役 割を果たせば、需要を取り込める チャンスとなる。RUMアライアン スの近藤典彦代表理事は「我々が世 界にどうやって社会貢献できるか、 グローバルで何ができるかを常に考 えている」という。社長を務める会 宝産業(金沢市)はブラジルやナイ

ジェリア、アラブ首長国連邦(UA E) などで事業を展開する。将来性 んでいる。

事は自動車メーカーなどとの関わり もあることから「知的財産登録など を行い、(部品に対する)防衛をす ならではのリスクもあり、模索する そうだ。

自動車リサイクル。日本国内でも市 とが求められる。 場規模から見ると伸び代はある。業 NPO法人JARAは北米や東南 界の足元を固めるためには、河村二 四夫代表理事(日本ELVリサイク ル機構)が「リサイクル士制度を充の河村二四夫代表理事は「14年を 実していきたい」というように業界 超える低年式な車両が中古車として の人材育成も欠かせない。また各団 多く輸出されている。業界がまわる 体が研修会や技術コンテストなどを ためにも一定の歯止めは必要ではな 開催しており、組織全体の底上げや いか」と指摘する。抜本的な解決策 多い。海外からの研修生の受け入れ 交流を図ることは今後も継続して行 はまだ見いだせないが、「自り法の うべきだ。

> ところだ」(トータルカーリサイク プ・大橋岳彦会長)、「高い値段で ルグループ・大橋岳彦会長)、 AAの車両を買い、高い単価で部品 た) グリーンポイントを国は認めて 気構えが必要ではないか」(日本 尼岡良夫会長)といった自動車メー を受け入れての企業努力を行うべき 代車への対応や、法施行10年目を けては通れない問題だけに、各団体 迎えた自動車リサイクル法見直しの が正面から取り組むことが重要とな 議論もある。ここにきて業界内外を る。 取り巻く環境は急激に変わり始めて いる。

サミット宣言では「関連する事業

分野との連携を深める」ことも採択 した。製造者である自動車メーカー や利用者である整備業界との関係強 化は今後、必須となる。参加者から 一方で、ARNの岡田誉伯代表理 は業界の「ガラパゴス化」への言及 もあり、これまでの業界の形に警鐘 を鳴らす声があった。テクルスネッ トワークの針ヶ谷昌之代表が「市場 規模や部品販売数も全体で全くわ かっていない。市場規模を発表でき るくらいの産業として、世間に認め られるような取り組みが必要だと思 う」と指摘したようにこれまで以上 世界市場で大きな可能性を秘める に業界が一致団結した姿勢を示すこ

使用済み車の確保は近年、リサイ クル事業者にとって悩みの種となっ ている。日本ELVリサイクル機構 中で使用済み車のガイドラインをつ サミットでは「さらなる自動車 くったが、有名無実化している。自 メーカーとの情報交換や公開は望む 助努力しかない」(TCRグルー 「(二酸化炭素削減数値を数値化し を売る。そういった武士道のような ほしい」(シーライオンズクラブ・パーツ協会・早川一二会長)と現状 カーや行政への要望もあった。次世 と言う意見も少なからず上がる。避

日刊自動車新聞 2月7日(土)

一前ページの続き

社長就任前の副社長時代から経営者 の感覚を持って仕事に取り組んでい たが「より意識が強くなった。危機 管理に対応しながら次世代に上手く引 ている。

多方面への展開でリスク分散

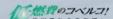
ポイントの一つとなるのが一般消 費者からの直接買い取りだ。故障や 事故で使用できない不動車を買い取 ることで顧客から感謝される場面も 多い。インターネットを通じて買取

り車両を募るなど強化している。将 来的には一般消費者からの買い取り 台数を、廃車の入庫台数の4割程度 にまで高める意欲的な目標を掲げて いる。「東京オリンピックを控えた 特需があるうちは懸念材料は少なく き継ぐことも自分の役割」(同)と考え ても、必ず終わりを迎えるはず」 (同)と強調する。17年4月には 10%への消費増税も予定されてお り、景気動向がどう変わるかは不透 明だ。スクラップ相場も乱高下する 可能性もあるため、多方面にわたり 事業展開することで、経営リスク分 散を図っていく方針だ。



日刊自動車新聞 4月23日(木)





コベルコが提案する 新しい考え方

1979年世界初の自動車解体機の発売以来、 30年以上にわたって金属リサイクル分野で常にリードし、 環境負荷の低減に貢献してきました。

マルチ解体機

使用済み自動車の解体以外にも廃家電などの金属製機器の解体および さまざまな複合廃棄物の解体・分別作業が可能です。





8K135SRD

http://www.kobelco-kenki.co.jp/

SK2100

コベルコ建模株式会社

KOBELCO

We Save You Fuel

New ideas come from KOBELCO

Since launching the world's first car-dismantling machine in 1979, KOBELCO has continued to take the lead in the metals recycling industry. For over 30 years, we have contributed to reducing environmental impact.

Multi-Dismantling Machine

Car-Dismantling Machine

Multi-Dismantling Machine can break down various metal products and equipment such as used household appliances and can separate and sort various composite material wastes.

In addition to dismantling end-of-life cars, Car-Dismantling Machine efficiently separates and sorts raw materials in end-of-life cars and is able to recover rare earth metals.





KOBELCO CONSTRUCTION MACHINERY EUROPE B.V. http://www.kobelco-europe.com/

KOBELCO CONSTRUCTION MACHINERY U.S.A. INC.

KOBELCO

神钢 无坚不摧!

新构想源于神钢

1979年世界第一台汽车拆除机发售以来, 30多年来一直引领金属再生领域, 在降低对环境压力方面功不可没。

多功能拆除机

汽车拆除机

拆除废家电等金属制机器以及各种复合 能够回收稀金属资源。

不仅可以拆除不再使用的汽车,还可以 可快速进行报废汽车内索材的分类作业,

废弃物品的拆除、分类作业。





SK135SR

成都神鈿工程机械(集团)有限公司

http://www.kobelco-jianji.com/

KOBELCO

We Save You Fuel

새로운 발상은 KOBELCO에서

1979년 세계 최초로 자동차 해체기를 출시한 이래, 30여 년에 걸쳐 금속 재활용 분야에서 항상 앞장서서 환경 부하 저감에 공헌해 왔습니다.

멀티 해체기

용도 폐기된 자동차의 해체 외에도 폐가전제품 등 금속제 기기의 해체 및 다양한 복합 폐기물의 해체·분리작업이 가능합니다.





SK135SR

📵 (주)삼정건설기계

http://www.samjung-kenki.co.kr/



Go Go Japan Industry (M) Sdn Bhd

Lot 15, Jalan 4/32A,

Mukim Batu Industrial Area, 6½ Mile Off Jalan Kepong 52000 Kuala Lumpur, Malaysia.

Tel: 03-62415258 Fax: 03-62415285



高品質 High Quality 品质高超





低価格 Resonable Price 价恪合理



迅速なデリバリー Speedy Delivery 交货迅速



優れたサービス Excellent Service 服务卓越













For Enquiry, Please Contact / 询问洽购,请联络: 03-6241 5258

< Parts Supplying Fully Back Up by HIDA TEC Japan >



Tel : 025-539-1515 Email: narc-2001@helen.ocn.ne.jp

Tel: 025-274-1516 Email: narc-2004@ace.ocn.ne.jp



KAETSU Branch

JOUETSU Branch